

保育随想

『積木ばなし』の

積みなおし

上沢 謙二

指ばなし、絵ばなし、かぞえばなし、読み聞かせばなし、さては折紙ばなしというようなものも出てきたが、ここにまた「積木ばなし」ともいうべきものをやってみた。

どこの幼稚園でもそうだろうが、三年保育の一年目の入園はじめの子どもを大勢集めてのおはなしは、なかなかうまくいかない。それで、考えてやってみたのが、この積木ばなしなのである。

サークルになった子どもたちの前へ、積木を六つ載せた小さいテーブルを出す。

「さあ、ここに、おうちがありますよ」  
そういつて、テーブルのまん中へ、一つ

積木をおく。

「ほうら、一階。一階には、赤ちゃんがひとりいました」

同時に指を一本出してみせる。「ひとり」をはっきり印象するため。

「赤ちゃんはようくおねんねしてました。すうすうって」

それからもう一つ、積木を出して重ねる。

「ほうら、二階。二階にはおとうさんとおかあさんと、ふたりいました」

同時に指を二本出してみせる。

「おとうさんとおかあさんがごあいさつしていました。『おはよう』『おはよう』って」

それから、もう一つ積木を出して重ねる。

「ほうら、三階。三階には、きょうだい

が三人いました」

同時に指を三本出してみせる。  
「きょうだいはジャンケンをしてあそんでいました。ジャンケンポンて」

それからもう一つ積木を出して重ねる。  
「ほうら、四階。四階には、おじいさん

とおばあさんと、おじいさんとおばあさんと四人いました」

同時に指を四本出してみせる。

「おじいさんとおばあさんと、おじいさんとおばあさんは笑っていましたよ。あははあ、あははあって」

それからもう一つ積木を出して重ねる。

「ほうら、五階。五階にはおともだちが五人いました」

同時に、指を五本出してみせる。

「お友だちはみんなでお菓子をたべ었습니다。『おいしいね、おいしいね』って」。

それからもう一つ積木を出して重ねる。

「ほうら、六階……と——がらがら、がらがら！ くずれて、倒れて、ひっくりかえった。おしまい」

きいていた子どもたちはわっと声を挙げた。

けれども、あとで考えた。

このおしまいは適当だろうか。子どもたちはおはなしの中の積み重ねることよりは最後のがらがらのほうにより強い印象を与えられて、丹念に重ねることよりはむやみ

にくずすほうに興味をひかれはしないだろうかと。

それで、おしまいをこう変えて、積みなおしをした。

「ほうら、六階。六階には子どもが六人いました」

同時に、指を六本出してみせる。

「子どもたちはならんで方々見ていました。『ほうら、山が見える、川が見える』って。おしまい」

そうすると、子どもたちはなんとなくぐるぐるあたりを見まわした。或るものは背伸びをした。立ちあがって見まわすものもあった。けれども、もちろん何も変ったものはない。いかにも物足りないように思われた。

それで、あとで考えた。

このおしまいは適當だろうか。もつと子どもに満足を与えるような、積極的なしめくくりができないだろうか。

それで、おしまいをこう変えて、積みなおしをした。

「ほうら、六階。六階には子どもが六人

いました。子どもたちは揃って歌をうたっていましたよ」

そこで、ひとりの先生がオルガンをひき出す。園児たちがよく知っている譜だ。

「さあ、私たちも一しょにうたいましう。『お手々つないで野路をいけば……』」

うたいおわって「おしまい」。

けれども、あとでまた考えた。いったいこのおはなしは一種の漸層形式だが、更に漸層形式にして、次第にはじめへ戻るといようにしたら、形式的にはもちろん、内容的にも意味も興味も加わるだろうと。

それで、こういうおはなしを加えて、積みなおしをした。五階のお菓子をたべているところが済むと、改めてこう話しはじめた。

「おいしいおいしいってお菓子をたべてしまつと、五人の子どもは下へおりてきました。それで五階には誰もいなくなりました。はい」。五階の積木を取る。

「それから、四人のおじいさんとおばあさんは、あははあははあと笑いながら下

へおりていきました。それで四階には誰もいなくなりました。はい」。四階の積木を取る。

「それから、三人のきょうだいはジャンケンポンをやめて、下へおりていきました。それで三階には誰もいなくなりました。はい」。三階の積木を取る。

「それから、ふたりのおとうさんとおかあさんは「ごはんをたべよう」って、下へおりていきました。それで二階には誰もいなくなりました。はい」。二階の積木を取る。

「それから、一階に眠っていた赤ちゃんはお目々がさめて「ああん、ああん」といいたしたので、おかあさんがきて、だいていきました。それで一階には誰もいなくなりました。はい」。一階の積木を取る。

「おしまい」

同時に、この一文も「おしまい」。

\*

\*

\*

\*